



救いの泉

あなたたちは喜びのうちに、救いの泉から水を汲む。

(イザヤ書 12 章 3 節)

コロナ禍で社会全体が不安に怯えている中、教会も出口が見えない状況が続いています。

今日の箇所感染症は出て来ません。しかし新型コロナウイルスを超えるほどの苦しみの中でこの言葉が置かれています。この預言が発せられたのは紀元前 8 世紀の終わり頃、イスラエル民族が超大国アッシリアの脅威にさらされていた時期、亡国の危機が迫り、未来に望みを持たない時代でした。しかし皆さんは変だと思われませんか。そうです。そんな暗い時代に語られた神の言葉がどうしてこれほどに明るいのでしょうか。

本当の神に背いて偽りの神々になびき、繰り返しなされた警告にも耳を傾けず、どこまでも墮ちてゆく人々を見て怒った神が、外国の軍隊をイスラエルの民に差し向けたというのがこの時代の状況です。国は、やがて実際に滅ぼされてしまうのです。預言者イザヤはこのようなイスラエル民族の暗たんたる未来について神様から示されており、語ってもきました。しかし、その彼に神様から届けられたもう一つのメッセージがこれです。それは、このあと訪れる苦しみが大したことがないというわけではありません。イスラエルの民が神のまことに厳しい罰を受けるという定めはなんら変更されませんが、それを突き抜けたところに光が見えているのです。

12 章 1 節は言います、「その日には、あなたは言うであろう。『主よ、わたしはあなたに感謝します。あなたはわたしに向かって怒りを燃やされたが、その怒りを翻し、わたしを慰められたからです。』」その日とは、国土が蹂躪されて外国に捕囚となり、絶望に打ちひしがれていた人たちに対して神様が怒りを解き、慰めて下さる日、捕囚の時代がついに終わって皆が先祖伝来の地に帰還できる日のことです。神の怒りと裁きの下にあった罪人（つみびと）の罪を神様が赦して下さる日です。

2022 年 4 月発行

苦しみ这个时代が終わり「あなたたちは喜びのうちに、救いの泉から水を汲む」の言葉が実際に実現した後、これは毎年の仮庵（かりいお）の祭りの時に歌われるようになりました。昔エルサレムの都に神殿が建っていた頃、祭司はこの日、水を汲んで神殿の祭壇に注ぎました。人々は神殿に向かう間、「あなたたちは喜びのうちに救いの泉から水を汲む」と歌ったのです。ただ歌っただけではありません。跳んだりねたりして、喜びをからだいばいに表しながら合唱したのです。

フォークダンスの「マイムマイム」はこの時の踊りが元になっています。マイムとは水のこと、「喜びをもって水を汲め。救いの泉から。水、水、水、水、嬉しいな」と、歌いながら踊るのです。乾燥した大地に住む中近東の人々が水に対して抱く思いは日本人の比ではありません。

イエス様はこの仮庵の祭りの日にエルサレムに来られました。「祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。『渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。』」（ヨハネ 7 章 37-38 節）。

これはもちろん、イエス様が給水センターになったということではありません。イエス様を通して与えられ、流れ出るようになる生きた水とは神の力、聖霊を指しています。水を飲んでのどの渇きをいやしても、いずれまたのどが渇きます。しかし、イエス様を通して与えられる生きた水を飲む人、すなわち聖霊を注がれる人は決して渇くことはありません。この水はイエス様が尊い命をささげたことによって、つまり十字架の死を引き受けて下さったことによって初めて完成した救いのことなのです。この水、聖霊は私たちの喉の渇きをいやしたり、健康な体を保つことを超えて、どんな苦難の時にあっても私たちの心の飢え渇きを解決して下さいます。

(2022 年 1 月 30 日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊